

フューネラルコンサルで葬送の一体化を バルーン宇宙葬の実施や家族信託の提案も

自治会の活動に接し近隣の人の葬儀にかかわることで、葬儀社の対応にいささかの疑問を感じた。これら地域活動やボランティア、さらに自身の婚礼の司会者経験などを生かして立ち上げたのが SOGI サポートセンターの Lin MC Group 株式会社(東京都調布市、林清子代表取締役)だ。市民目線、消費者目線を念頭に事前相談から葬儀、事後相談までの一連の流れをフューネラルコンサルティングという、より傾聴力の高めたコンサルティング手法で遺族らに癒しをもたらしている。故人を「送る」のではなく、「送りのべる」という意識の中で、「あなたの願うご葬儀を実現します」をモットーにしている。そのため多様な葬送スタイルを提案し、現在は「バルーン宇宙葬」などの実施や家族信託にも注目している。林代表にそれぞれの取り組みについて聞いた。



林清子代表

際立ったオープニングセレモニー

同社は1999年4月に葬送事業をスタートさせ、9月にオープニングセレモニーを開いた。自身の生前葬を始め手話による司会の導入、点字の式次第などをラインナップして提案し、ユニバーサルデザインに即した葬送スタイルをつまびらかにした。このユニバーサルデザインとは老若男女、そして障害の有無などにかかわらず、すべての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間などをデザインすることをいう。つまり誰にとっても得心でき、一人ひとりのニーズに合わせたオーダーメイドの葬送を提案したわけだ。このときには思い出コーナーなども会場にしつらえたというから、時代を一步先行く取り組みには驚く。

創業のきっかけや葬儀への思いを林代表は次のように話す。

「困っている人のサポートをしたいということで立ち上げたのがきっかけです。当社では人の死というのは亡くなるのではなく、人生を生き抜いて卒業したととらえています。幼稚園や小学校、中学校、高校、大学を卒業する。そして勤めて、定年になってリタイアして…と、さまざまな思いの中で生き抜いて卒業し、その生きた人の想いのバトンを受け継ぐのが残された人たちの使命と考えています。その



多摩川河川敷は同社の目の前にある



花をメインにした同社の祭壇

ため思い出コーナーというのは感動ではなく、その人の足跡を見て故人を知っていただきたいということでもあります。さらにフューネラルコンサルティングの根底にはカウンセリング & ケアがあります。それによって一人ひとりに合った葬儀を提案してい